

## Step

## おすすめの受験対策

### Step1 技術士にチャレンジ!

- ①受験資格（実務経験）があるかどうかをチェック。
- ②どの部門・選択科目で受験するかは重要。過去の試験問題を調べたり、今までの業務経歴を整理したりして最も有利な部門・選択科目は何かを検討する。
- ③第二次試験の学習範囲は広く、深い。早めの受験決意と早めの学習スタートが大事。

まず、過年度問題を研究する。  
解答事例集は、過去数年分は必読。

#### 過年度問題解答集

『技術士第二次試験「必須科目」択一式問題解答解説集』  
『平成26年度技術士第二次試験解答事例集』（新刊）  
（19～25年度版も既刊）※P.14～15参照  
受験申込書の作成については『業務経歴票・口頭試問実例集』が参考になる。※P.16参照  
前ページの無料ガイダンス、セミナーも必聴。

### Step2 第二次受験申込（4月～5月）

- ①受付期間を確認のうえ、余裕を持って準備する。
- ②受験申込書の書き方は重要。部門・選択科目・専門とする事項を何にするか、業務経歴票の表現方法など、よく考えて記入する。  
－「業務内容の詳細」の記述は最重要！－

#### 受験申込書作成個別指導

（オプション講座・4月）※P.25参照

〔通信教育講座・どの講座も2015年度試験に対応しております〕

### Step3 受験学習

- ①Step1のなるべく早い時期から学習を始める。受験対策講座を利用することでスケジュール管理ができる。
- ②過年度問題の傾向と試験に関する情報から、なるべく多くの予想問題とその解答例を作成する。関連情報を収集し、それらを自分の言葉で記せるようにする。

#### 技術士第二次試験合格対策講座

#### 技術士第二次試験実力養成講座

全5回スクーリング（2月～6月）

#### 技術士第二次試験完全合格対策講座

全3回スクーリング（3月～5月）

#### 試験直前公開模擬試験

講師面接による模擬試験の総評と個別指導  
（オプション講座・6～7月）

技術士第二次試験合格一直線コース  
（実力養成+模擬セミナーのセット）

### Step4 筆記試験（8月上旬）

- ①時間配分に注意。予想外の問題が出てもあきらめずに設問の要求に沿ってまとめる努力をする。  
また、問題番号や受験番号の記入忘れにも注意。
- ②試験終了後は、口頭対策のため解答の復元をしておく。

※各講座についてはP.20～24参照

### Step5 口頭試験対策の準備（8～10月）

筆記試験の答案の不備をフォローしたり、受験申込書の業務経歴票を見直したりして口頭試験に備える。

### Step6 筆記試験合格発表（10月下旬）

- ①合格が確認できたら、即、口頭試験対策に本腰を入れる。筆記試験での答案復元や業務経歴票などから口頭試験の想定質問の予想と回答準備。十分な受験対策準備を。
- ②筆記試験不合格の場合は、受験結果の成績表を確認して敗因をよく考え、来年の合格を目指して再度受験学習をスタートする。

口頭試験対策オプション講座：「口頭試験完全合格直前対策講座」※P.25参照

#### 口頭試験対策参考書

『業務経歴票・口頭試問実例集』  
『技術的体験論文事例・講評集』  
『口頭試験 試問・応答事例集』

### Step7 口頭試験（12月～1月）

- ①自信をもって臨むこと。自信を持つためには、十分な受験対策をStep6で行うしかない、
- ②今後のために、試験終了後は口頭試験の質問内容と回答などの状況を復元しておく。

口頭試験完全合格直前対策講座の受講者には、アフターフォローとして「口頭試験速報」をEメール配信し、実際の口頭試験の質問内容などの最新情報を提供。

### Step8 合格発表（3月）

- ①合格が確認できた方：おめでとうございます。これからは技術士として、一層ご活躍ください。
- ②不合格の方：残念な結果でしたが、筆記試験合格までたどりつけたのですから、実力は証明されています。さらに実力に磨きをかけて再チャレンジし、次回は必ず栄冠を勝ち取ってください。

合格された方は次のステップとして、他部門・他科目や総合技術監理部門の合格をぜひ目指してください。  
技術士第二次試験対策講座は、各講座とも総合技術監理部門も対応しております。